

# 社会科学習指導案（小学校3年）

## 単元名 「 はたらく人とわたしたちの暮らし 農家の仕事 」

### I 単元の構想

#### 1 身につけさせたい資質・能力および児童生徒の実態

	身につけさせたい資質・能力	児童生徒の実態
知識・技能	○町では様々な農作物を生産しており、産地は町内に分布していること、また生産には一定の順序や工程があることへの理解 ○調査活動や各種具体的な資料から、必要な情報を集める技能	－ 略 －
思考力・判断力・表現力	○農業生産の課題とその解決方法や工夫を消費者の視点から考え、地域社会の一員としての関わり方を選択・判断する力 ○考えたことを表現する力。	－ 略 －
主体的に学習に取り組む態度	○地域社会に対する誇りと愛情を育むと共に、地域社会の一員として社会への関わり方を選択・判断する態度。	－ 略 －

#### 2 目標

町の主要な農産物について、仕事の工程に着目して、調査したり資料で調べたりして、生産に携わっている人々の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、生産の仕事は地域の人々の生活と密接な関わりを持っていることを理解する。

#### 3 評価規準

##### 【社会的事象への関心・意欲・態度（ア）】

- ・地域の農家の仕事の様子に関心を持ち、意欲的に調べている。
- ・消費者の視点から農家の仕事を捉え、地域社会の一員として、地域に対する誇りや愛情を育む。

##### 【社会的な思考・判断・表現（イ）】

- ・農業生産の課題とその解決方法や工夫を消費者の視点から考え、地域社会の一員としての関わり方について自らの考えをまとめ表現している。

##### 【観察・資料活用（ウ）】

- ・聞き取り調査や統計資料などから必要な情報を読み取り、文章やカレンダーにまとめている。

##### 【社会的事象についての知識・理解（エ）】

- ・生産には一定の順序や工程があり、地域で生産されたものは地域の人々の生活に役立っていることを理解している。

#### 4 単元計画および指導方針

時	避	学習活動	評価	指導方針
1	つかむ	○町の特産物を知り、農家の仕事に関心を持つ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習課題：きゅうり農家ではどのような仕事をしているのだろう。</div>	ア	・甘楽町の農作物の中で、生産額の多いものをランキング形式で提示し、甘楽町の優れた点に気づかせるようにする。 ・きゅうりの生産量が全国2位である群馬県の中で、甘楽町が生産量が高いことから、きゅうり農家の仕事に関心を広げさせ、学習課題を設定する。
2・3		○資料から甘楽町のきゅうり栽培の工程をカレンダーにまとめる。	ウ	・1年間のきゅうり栽培の工程について、事前に農家の方へのインタビューを行い、その様子とそれを文章に起こしたものを使って、きゅうり栽培の工程をカレンダーにまとめさせる。
4本時	追究する	○一般的なきゅうり栽培のカレンダーと甘楽町のカレンダーとを比較し、甘楽町の特徴をつかむ。	イ	・カレンダーを比較し、きゅうりは夏の野菜であるが、甘楽町ではビニールハウスを使い、1年中収穫できるようになっていることに気づかせると共に、消費者の視点からもそのことを考えさせる。
5		○農作物の出荷先を調べ、JAの仕事を知る。	エ	・ほとんどの農作物がJAに出荷されていることを知り、JAの仕事に関心を持たせるようにする。 ・「もっと知りたい日本の農業」を活用し、JAの仕事の他に、日本と甘楽町の農業の課題にも触れる。

6	まとめる	○農家の仕事や農業の課題をまとめ、地域社会の一員、消費者の視点から考えたことをまとめる。	ア	・農家の仕事と課題を知り、社会の一員としてしての考えたこと、消費者としての社会との関わり方について自らの考えをまとめさせる。
---	------	--	---	--

## II 本時の学習

### <ねらい>

きゅうりの栽培カレンダーを比較することを通して、甘楽町のきゅうり栽培の特色をつかみ、消費者の視点からその良さを考える。

学習活動	指導上の留意点
<b>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを設定する (3分)</b> <めあて> どうして甘楽町のきゅうり生産量はおおいのかな。	・前時完成させたカレンダーを提示と、甘楽町の農作物の生産額ランキングを提示し、生産量が多い理由に関心を向けさせ、児童の言葉でめあてを設定する。
<b>2 個別に課題を追究する。 (7分)</b> T：これが普通のきゅうり栽培のカレンダーです。甘楽町のカレンダーと違いがあるかな？ S：収穫時期が多い。 S：1年中収穫できている。 S：ビニールハウスを使っている。	・一般的なきゅうり栽培のカレンダーを提示し（配付）する。 ・きゅうりは本来夏の野菜であることを示す資料を合わせて配付する。 ・違いをノートに書かせ、発表させる。
<b>3 グループで追究する。 (10分)</b> T：違いがあることで何がかわるのだろう、また、消費者にとってはどのような違いになるのだろう。	・違いが生産量とどう関わっているのか、自分たちの生活とどのような関わりがあるのかを考えさせる。 ・このとき、きゅうりの農家との視点、消費者の視点から違いによって何がかわるのかに焦点を当てて、対話を通して考えをまとめさせる。
<b>4 追究したことを全体で比較・検討する。 (15分)</b> S：ビニールハウスを使うと、1年中収穫できて収穫量が増える。 S：1年中収穫できるから、1年中きゅうりが食べられる。	・追究したことをグループごと用紙にまとめさせ、それを黒板に提示し発表させる。 ・共通点を見つけ、まとめの言葉を考えさせる。
<b>5 学習のまとめをする (10分)</b> <まとめ> ビニールハウスを使うことで、1年中きゅうりが収穫できるようになり収穫量が増え、1年中きゅうりを食べるができる。	<b>【評価項目】イ（見取りの方法）</b> 栽培の手順・工程の違いが生産量の違いにつながっていること、ビニールハウスを使うことで、1年中きゅうりが収穫できることを説明している。（ノート・発言）
<振り返り> T：今日の授業で分かったこと、分からなかったことをノートに書きましょう。	

<b>11月19日（火）</b> <b>農家の仕事</b> 学習問題 農家ではどのような仕事をしているのだろう。	甘楽町のきゅうり栽培のカレンダー 一般的なきゅうり栽培のカレンダー	<b>違いから考えたこと</b> <table border="1"> <tr> <td>1班</td> <td>2班</td> <td>3班</td> </tr> <tr> <td>4班</td> <td>5班</td> <td>6班</td> </tr> </table>	1班	2班	3班	4班	5班	6班
1班	2班	3班						
4班	5班	6班						
めあて どうして甘楽町のきゅうり生産量が多いのかな	<b>違い</b> ・収穫時期が多い。 ・ビニールハウスを使っている。 ・種まきが多い。	<b>&lt;まとめ&gt;</b> ビニールハウスを使うことで、1年中きゅうりが収穫できるようになり収穫量が増え、1年中きゅうりを食べるができる。						